

「九大生のための金融・FinTech セミナー」講演録

前田, 真一郎
九州大学 : 教授

<https://doi.org/10.15017/7391576>

出版情報 : 経済学研究. 92 (1), pp.125-127, 2025-10-31. Society of Political Economy, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :



(講演録)

「九大生のための金融・FinTech セミナー」講演録

前 田 真 一 郎

九州大学経済学会は、福岡県との共催で、2025年（令和7年）6月4日（水）14：50～16：20に「金融・FinTech セミナー～福岡に進出した金融機関・FinTech 企業が語る福岡の未来とキャリア～」を開催しました。

開会に際し、大西研究院長および福岡県商工部・企業立地課国際金融班の大塚氏より、趣旨説明が行われました。福岡県では、2020年（令和2年）に国際金融機能の誘致を目指し、福岡市や地元の金融機関・企業などをはじめ九州大学も参画する形で「TEAM FUKUOKA」を結成しました。2024年（令和6年）6月には、福岡市が金融庁による「金融・資産運用特区」に選定されています¹⁾。国際的な金融機関や資産運用会社、FinTech（フィンテック）企業などの福岡進出も進むなど、金融の新たな動きが出てきています。今回のセミナーでは、国際的な金融機関としてステート・ストリート信託銀行、FinTech 企業として株式会社 LayerX、iYell 株式会社にご登壇頂きました。

第1部では、上記3社によるプレゼンテーションが行われました。

ステート・ストリート信託銀行からは、取締役チーフ・オペレーティング・オフィサー福岡営業所長のアリソン・バーチ氏よりご説明頂きました。親会社である米国ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーの創業は1972年で、230年以上の歴史があります。年金や投資信託などの資産を管理・計算・報告する業務の資産管理サービス等を行っています。日本へは1986年に進出し、現在では福岡オフィスオペレーション拠点にアジアや世界の顧客にサービスを提供しています。

株式会社 LayerX からは、九州支社長代理の藤井洋子氏よりご説明頂きました。LayerX は、2018年8月創業の新しい会社です。「すべての経済活動を、デジタル化する」をミッションとして、AI SaaS と AI DX 事業を展開しています。AI SaaS 事業では、企業活動のインフラとなる業務を効率化するクラウドサービスや社内のナレッジやノウハウをデータベース化する AI プラットフォームの提供、AI DX 事業ではソフトウェアを駆使したアセット・マネジメント、証券事業を合併会社にて展開しています。

iYell 株式会社からは、執行役員 CHRO の伊東拓真氏よりご説明頂きました。iYell 株式会社は、2016年創業の FinTech 企業で、住宅ローンのオンラインプラットフォームを提供しています。日本では栃木県、埼玉県、大阪府、福岡県、長崎県に展開しており、2024年にはベトナムに開発拠点を設立しま

1) 福岡市経済観光文化局国際金融機能誘致 News Release 「福岡市が『金融・資産運用特区』に選定されました」、2024年（令和6年）6月4日（https://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/kouhou-hodo/hodo-happyo/2024/documents/HP_kinyuushisanunnyoutokku.pdf）参照。

した。スタートアップ企業として、金融機関や住宅事業会社と資本提携を行い、創業から8年の短期間で99億円の資金調達を行っています。

第2部では、登壇者によるパネルディスカッションが行われました。具体的には、以下3つのテーマについてディスカッションを行いました。

(1) 金融のデジタル化・FinTechの広がりについて。

1つ目のテーマとして、金融のデジタル化がグローバルな金融機関や社会にどのような影響を与えるかについて考えました。デジタル化の進展により、グローバルな金融取引が可能となっています。またFinTechの広がりにより、本日ご説明頂いた会社のような新しい金融サービスが生まれています。このような中で、金融取引は速くて、正確であることが求められます。その際、デジタル化の進展に任せる業務と、人が関与していく業務の見分けが重要となってきています。金融取引におけるリスクの整理と管理を徹底し、顧客のリスクテイクの許容度も見ながら、業務を行っていくことが必要との認識を共有しました。

(2) 福岡を拠点とした金融機関・FinTech企業の展開について。

2つ目のテーマとして、なぜ福岡に進出したのか、東京を拠点とする企業が多い中で福岡に拠点を設ける理由についてお聞きしました。東京に本社を持つステート・ストリート信託銀行は、2012年に福岡オフィスを設立しています。その背景には、2011年3月の東日本大震災がありました。すべての銀行はBCP（事業継続計画）を策定しています²⁾。東日本大震災を契機に、東京から離れた場所に事業を継続できるような機能を持たせたオフィスが必要であるとの判断がありました。そこで福岡を選んだ理由は、①東京から離れており、地震や台風等、自然災害が同時に起きる確率が低い、②西日本と東日本では電波の周波数が異なり、どちらかで電気関連の問題が発生しても対応可能、③福岡はコンパクトシティで従業員の生活環境が整っており住みたいまちである、④空港が近いなど交通機関が充実しており、東京へのアクセスも容易である、⑤九州には（本日の聴講者である）皆様のような優秀な学生が多く、良い人材を採用できることなどがありました。また株式会社LayerXは、東京に本社を構え、名古屋・大阪・福岡に拠点を設けています。藤井氏自身が福岡を拠点にフルリモートで活動しており、働く場所は問わない状況となっています。

(3) 働き方・キャリア形成について。

3つ目のテーマとして、九大生に向けた働き方・キャリア形成についてアドバイスを頂きました。

2) BCPは、Business Continuity Planの略で、災害や事故、サイバー攻撃など緊急事態が発生した際に、企業が中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするための事業継続計画である。

アリソン氏は、最初の会社に24年間という長期にわたり働いています。ネットワークを広げながら、様々な経験をすることができたとのこと。ただし、その後転職も経験しており、自分にあう会社を選ぶことの重要性をお話し頂きました。また藤井氏は、ライフスタイルの変化にあわせて、その時に一番大事にしているものを選びながら働いてこられています。その時々での選択が、結果的にすべてつながってきているとのことでした。働き方・キャリア形成については、学生にとっても関心が高く、質疑応答も含めて有益なお話を頂きました。

〔九州大学教授〕

